

牛群検定通信 No145

～ 繁殖成績の向上 ～

牛群検定成績表は授精回数や初回授精などの授精状況、妊娠頭数や空胎期間や乾乳日数などの管理状況、更に分娩間隔など様々な繁殖関係の情報が記載されています。また、乳量や乳成分からも栄養状態や分娩後の飼養管理状況が分かりますし、気象情報の記載もありますので、暑さ寒さも把握することができます。これらのデータを活用して、繁殖改善に取り組んでいきましょう。

繁殖改善というと、「受胎率」ばかりに注目する方が多いようです。しかし受胎率だけを改善ポイントにして取り組んでも、繁殖成績を改善できない例が多数あります。例えば、「発情発見」はその代表例です。発情を発見しなければ人工授精そのものを実施できないのですから、発情発見の改善は受胎率とあわせて実行しなければならないわけです。受胎率の改善だけで繁殖改善につながらない例は、この他にも「分娩後の初回授精日数」があります。分娩後に例えば 200 日と長期に人工授精を行わなければ、その後一発（受胎率 100 %）で受胎した場合であっても、分娩間隔は 480 日（分娩後 200+妊娠 280 日）にもなってしまいます。発情発見と分娩後初回授精日数の改善はともに大切なものですが今回は分娩後初回授精日数に的を絞って考えてみます。

初回授精日数は非常に重要です。というのは、分娩後初めて授精する日までの日数ということで、分娩後の飼養管理、特に、栄養状態の善し悪しが大きく関係しているからです。

牛群成績の右下部に授精報告として、初回授精に関する成績が掲載されています。まず見るのは今月の未授精牛の欄です。未授精とは文字通り授精をしていない牛で、59日以下の場合はまだ早いと判断して授精しなかったとも言えるのですが、80日を過ぎて未授精である場合は、授精できない何らかの理由があったということで、発情が来ないか、非常に発情が微弱で種付けが行えなかったことを意味しています。この頭数が多いということは繁殖で苦戦しているということに他ならず、ほとんどの場合、分娩時のエネルギー不足から筋肉の消瘦が起こっている場合ですので、分娩時の管理をもう一度見直す必要があります。また、初回授精をいつ行ったかの数値も同じような意味合いで、検定の前月から3ヶ月間の成績と過去1年間の成績が載せてあります。過去3ヶ月と過去1年間ともに初回授精が100日を超えている割合が多い場合は、つまり分娩後100日以上経過しないと授精できるような発情が来なかったということで、非常に問題です。

牛群成績の移動13ヶ月中央部に授精状況の欄があり、そこに授精状況が記載されています。毎月の授精頭数はこの欄の左端に記載されていますが、ここで見るべきは授精開始日と3回以上種付けを行った割合です。授精開始日が遅いということは、発情が来なかったり弱かったりして、授精ができなかったということであり、これは分娩後の立ち上がりがスムーズでなかったということの意味しています。また、3回以上授精した牛の割合が多いということは、発情が来て種付けをしたものの受胎せず、再発情した牛が多いということの意味しますので、栄養が少し足りないか、肝臓が痛んでいるか、或いはストレスを受けたのかなど、多方面から検討しなければなりません。初回授精日の短縮と3回以上の牛の割合を減らすことが繁殖成績の向上に繋がります。